

## Q65

JJ1SXA/池

今や、アマチュア無線の世界では「FT8」を運用していないと、除け者になりそうな感がありますが、当初、WSJTはEME用に開発されたモードだった、HFの他、VUでも運用されるようになり、進化した現在の「FT8」はメインのモードとして居座っている感がある、そんな中、新しいモード、「Q65」が登場だ、2月3日(2021年)付けで「WSJT-X 2.4.0-rc1」がリリースされ、新しいモード「Q65」を搭載している。

まだ、RC版だ、このRC版とは、ハードウェアやソフトウェアの開発段階のひとつで、製品候補としてのテスト工程に入ったもののことであり、評価段階として関係者などに提供される版の段階を終了し、より出荷段階に近づいた出荷候補(release candidate)となるものがRC版であり、さらに改訂作業が進められることとなるようだ。

リリースノートの日本語訳は、次の通りだ。

「WSJT-X 2.4.0-rc1は新しいモードQ65を搭載しました。Q65はQRA64の実績の上で開発されたモードで、VHF帯からマイクロ波帯に至るまでのEME通信のため、柔軟なシンボルアルファベットと低コードレートを有しています。またVHF帯における電離層散乱通信にも有効です。

Q65は、FT8、MSK144、FT4、FST4などと同じように77ビットのメッセージペイロードを持ちます。さらにQ65は、電波伝搬状況に応じて、送受信時間が15秒から5分までいくつかの値をとることができ、また、トーン間隔も基本間隔からその16倍までパラメータ設定することができます。通常の水戸黄門には現れないような微弱な電波も検出できるように、ワイドグラフプロッターは超高感度同期スペクトラム表示を持ちます。新しい同期プロット、優れたAPデコード、複数回の受信におけるメッセージデータの累加と平均化処理により、あらゆる条件下で従来のモードを超える非常に微弱な電波での交信が可能となります。」、となっている。

良く分かりませんが、ネットでQ65を検索すると、早速取り組んでいる局は結構多いようで、CQ誌5月号(2021年)の別冊付録「50MHz帯をまるごと楽しもう」にも、JG1TSG下野OMが、「最新デジタルモード(Q65)を50MHz帯で使って分かったこと」という記事で紹介しています。

JT65、FT8、Q65の諸元を見比べて見ました、電波形式はいずれも「F1Dと」なっています、方式は、JT65が「65FSK」、FT8が「8FSK (8GFSK)」、Q65が「65FSK (65GFSK)」となっている。

JT65の名前は、開発者のK1JT・Joseph Taylorから命名されていて、FT8の名前は、K9AN・Steven Franke とK1JT・Joseph Taylor両氏の名前を冠した、Franke Taylor design 8FSK modulationからFT8と命名されたことは知られているが、Q65については分らない、Qに意味があるのでしょうか。

Q65のQは、QueenのQか、QuestionのQか、はたまた、何でしょう？